

製品名: CHST13 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08786**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	CHST13
別名	CHST13; Carbohydrate sulfotransferase 13; Chondroitin 4-O-sulfotransferase 3; Chondroitin 4-sulfotransferase 3; C4ST-3; C4ST3
遺伝子 ID	166012.0
SwissProt ID	Q8NET6
免疫原	抗血清はヒト CHST13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 211-260

背景

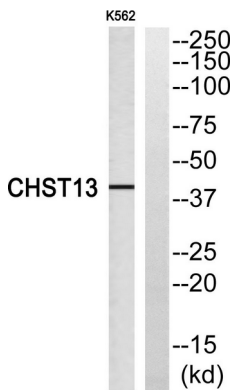
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、硫酸基転移酵素 2 ファミリーに属します。ゴルジ膜に局在し、コンドロイチン中の

グルクロン酸残基に挟まれた β -1,4 結合型 N-アセチルガラクトサミン (GalNAc) の C4 位水酸基への硫酸基転移を触媒します。コンドロイチン硫酸は、軟骨中に存在する主要なプロテオグリカンを構成し、多くの細胞および細胞外マトリックスの表面に分布しています。[RefSeq 提供、2011 年 8 月],触媒活性: 3'-ホスホアデニリル硫酸 + コンドロイチン = アデノシン 3',5'-ビスリン酸 + コンドロイチン 4'-硫酸。機能: コンドロイチンの N-アセチルガラクトサミン (GalNAc) 残基の 4 位への硫酸基転移を触媒します。コンドロイチン硫酸は、軟骨中に存在する主要なプロテオグリカンであり、多くの細胞および細胞外マトリックスの表面に分布しています。 β 1,4 結合型ガラクトシダーゼ (GalNAc) の C4 水酸基に硫酸基を転移し、C3 水酸基を β 結合型グルクロン酸に置換します。皮膚真菌に対する活性はありません。類似性: 硫酸基転移酵素 2 ファミリーに属します。組織特異性: 成体肝臓で高発現。腎臓、リンパ節、胎児腎臓では低発現。

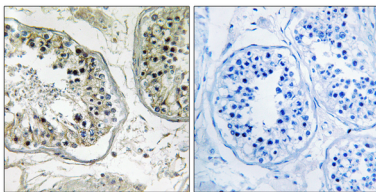
研究分野

コンドロイチン硫酸の生合成;硫黄代謝;

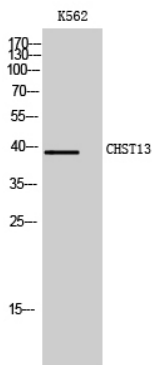
画像データ



CHST13 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは CHST13 ペプチドでブロッキングされている。



CHST13 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学染色。右レーンは CHST13 ペプチドでブロッキングされている。



CHST13 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析